

令和5年5月26日

議長選挙に係る所信表明会

(開会時間：午前10時01分)

○高橋芳子臨時議長

ただいまから、議長選挙に係る所信表明会を開会いたします。所信表明の申出は、申出順に、宮崎光夫議員、小柳はじめ議員から提出されております。

これより、申し出順に所信表明を行います。時間はそれぞれ概ね5分の範囲でお願いします。

最初に、宮崎光夫議員の推薦人は比企広正議員、若月学議員、小川徹議員、板垣功議員、五十嵐良一議員、板倉久徳議員、湯浅佐太郎議員、宮野清隆議員、高橋茂議員であります。

それでは宮崎光夫議員、登壇の上、所信表明をお願いします。

〔宮崎光夫議員登壇〕

○宮崎光夫議員

おはようございます。令和会の宮崎光夫でございます。

議員各位には、発言の機会を与您いただきましてありがとうございます。

それでは今回の、この度の議会議長選挙に立候補にあたり、所信の一端を表明させていただきます。

はじめに推薦をいただきました令和会、比企広正議員他9名のご推薦、本当に誠にありがとうございます。感謝申し上げます。

さて、私は、2期8年間市議会議員として、市民要望実現のため、心を砕いてまいりました。

また、議会においては、3つの常任委員会すべてに属し、特に市民に知らせるべき事柄について執行部の考えをたずね、そういうことをやってまいりまして、議論を深めるところに考えて参りました。

また、先般、この間まで行っていました議会運営委員会委員長として、委員の皆様のご意見をよく聞いて、それこそ最大公約数といいますか、皆様の意見が一致するように心を砕いてきたところでございます。

少数意見にしっかり耳を傾けながら審議をして参ったことは、今後も変わることはございません。

さて、そしてまた広報広聴委員会で議会だよりの見直しを行ってきたわけなんですけども、これは議会運営委員会が長い間、いろいろ議会改革を検討したその結果、まずは議会だよりのいうふうな見直しということでやってきたわけです。広報広聴委員会、それとその前の広報小委員会の中で委員長として委員の皆様と一緒に見直しについて斬新な見直しをしたというふうに考えておりますが、行ってきたところであります。

今回の市議会議員選挙では、非常にたくさんの新人の議員の方が立候補されました。これで私たちの活動が少し実を結んだのかなあと感じたところで投票率の向上を期待したところでありました。ところが、あに凶らんや、むしろ逆に3ポイントほど投票率が低下したというよう

なことで、なかなかまだ市民の皆さんには私たちの取組みが届いていないということが言えるかと思います。

別の見方をしますと、私たちの取組み、議会改革についてはまだ緒についたばかりであるということでもあります。新たな仲間がまた今回増えたわけですがけれども、是非違った形というか切り口の変ったところで新しいそういう考え方を、意見を出していただいて、ともに議会のあるべき姿っていいですか、それを模索しながら、一緒に議会改革を推し進めていきたいというふうに考えておりますので是非よろしくお願ひしたいと思います。

議会の大きな、重要な役割といたしましては、執行部から上がってきた提案をしっかりと審議して、結論を出す、決定する、つまり議決をするというのが一番大事な仕事であります。

さらに積極的な提案をしてこそ二代表制の、その価値が出てくるというふうに考えます。

今まで、この2年ほど、決算審査特別委員会で執行部に対して提言というような形でやってきました。これは提案という形、これは進むべき方向だというふうに私も認識しております。

総花的にならざるを得ない、決算審査ですから、全体ですから。今後は一つのテーマ、一つの課題に絞った形で提案するという形はいかがでしょうか。議員政策勉強会というのを定期的に行っています。これを一つの課題について、長期的というか継続的に勉強し、研究して、形として執行部にぶつけるというのがいかかかと思ひます。

例えば、私最近気になっているのは、自治会に対する市からの要請、非常に多くなっている。職員が増やせないというふうな状況から、自治会に任せるとうまくいくんでというふうなことです。非常に負荷が高まっているなあというふうに思ひます。保健自治会とか、あるいは選挙、投票の投票立会いとか、いろんな仕事がどんどんどんどん降りかかってくる。かたや自治会については人口減少の中で区費というか町内会費が集まらず非常に苦慮しているという、これも皆様、各議員の皆様、地元でよく話題になっているかかと思ひます。そういうところを何らかの人的支援を含めた支援が必要なのではないかと。なかなか執行部からそういう話が出てこない。まあ、一般質問でいろいろな方々がそういうふうな問題を指摘しているというのはありますけれども、なかなか進んでいかないというようなことでもあります。

後もう一つ思ひ出すのは、スクールバスなんですけれども、かつて遠距離通学支援というふうな形ですけども、今はもうすでに、むしろ児童生徒の安全安心の確保というふうな観点が非常に高まってきていると思ひます。この辺も研究しながら議員一丸となって一般質問ではなくて、一丸となって執行部に提案するというふうな形をとれたらいいんじゃないかというふうに思ひしております。

そんなところいろいろありますけれども、本当に所信の一端でございまして、是非、議員各位のご理解とご賛同を賜りますようお願いを申し上げます、所信表明といたします。

ありがとうございました。

○高橋芳子臨時議長

宮崎光夫議員は演壇にとどまってください。

ただいまの所信に対する質疑に移ります。時間は概ね2分の範囲でお願いします。質疑ある議員の挙手を求めます。

中村こう議員。

○中村こう議員

今ほどは、宮崎議員の所信表明を伺いました。大変期待しているところでありますけれども、内容は議会としての提案等のものでありましたけれども、最初のほうで議会改革と開かれた議会ということを目指したいということでございましたけれども、具体的なお考えありましたらお聞かせいただきたいと思っております。

○高橋芳子臨時議長

宮崎光夫議員。

○宮崎光夫議員

開かれた議会という言葉は、私は使った覚えはないんですけれども、目指す方向としては思っている考え方だと思います。開かれた議会というのは広報広聴委員会でも議会だよりの見直し等々やって広く市民の皆様に伝えするというふうなことをやってみました。あるいはWEB報告会で生で、生放送でWEB報告会に、なかなか視聴者は増えませんでしたけれども、そういう形をとっていた。そうすると今度、例えば、他所の市町村でやっていることなんですけれども、もう少しざっくりばらんな形での意見交換会、カフェトークっていうの、たしか視察に行ったところでやっている、高校生とかで相手にして、そういう形でいろいろな形はまだまだとれるかと思っております。もちろん、私が一存でやることではありません、議会は委員会もありますし、広報広聴委員会もありますし、そういう中での議論をできるように、それは側面支援という形になりましょうか、そういう形で考えていきたいというふうに思います。

○高橋芳子臨時議長

他に質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○高橋芳子臨時議長

それでは質疑を終了いたします。宮崎光夫議員は降壇し、自席へお戻りください。

〔宮崎光夫議員降壇〕

○高橋芳子臨時議長

続いて、小柳はじめ議員の所信表明を行います。

推薦人は、惣山かすみ議員、宮本佳太議員、広岡けんじろう議員であります。

それでは、小柳はじめ議員、登壇の上、所信表明をお願いします。

○小柳はじめ議員

それでは皆さんおはようございます。ひらく会の小柳はじめでございます。まず、市議会議長選挙に係りましての所信表明ということで、貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。私、これから行われます議長選に関しまして、幾つか心に決めてきたことがございます。

まず一つは、議会というのがちょうど4期目になりますが、以前、普通の一般市民であった時というのは、何をやっているかよくわかんなかった、正直。実際入るといろんなことが見えてきます。

そういった中で、地方議会というのは二元代表制ということが言われておりますが、実際のところは、市長与党なんて言われるぐらいですから、どちらかという市長の決めたことを追

従、追認していることがほぼ多いというのが現実です。ただ、私は二元代表制というものの意味を改めてかみしめて、議会としての意見、意思をもって市長に対峙するというのが必要だろうというふうに思ってるんです。

そういった中で、私は総務常任委員長の際に皆さんの協力もありまして、例えばイオンのショッピングセンターで期日前投票を行うことが実現しました。もちろん、それはいろいろな議員から声が出ててもなかなか進まなかったことが、総務常任委員会としてまとまったことで一気に進む。この突破力というのは目の当たりにしました。そこで議会の力というのは、これは大きいんだなということ、つくづく分かった次第です。

その後、私就任いたしました議会運営委員会では先ほど宮崎議員もおっしゃいましたが、議会改革の一環で広報広聴機能をとにかく強化しようと。まずは議会が何をやっているか知らせること、そして市民が何を考えているかを吸い上げること、この両方をしなきゃだめだということで、広報広聴機能を大幅に強化して広報広聴委員会というものを、独立した組織をつくるということ、準備をしていったわけでございます。その中で準備会の中で広報の刷新、カラー化、そして見やすくする、字数を減らす、写真を多くする、そのようなことで大幅にレイアウトを変えました。また、その中で例えばキャラクターの募集だったり、もしくはタイトルの募集だったり、こういうものも発案する中で皆さんの協力が進めることができた。それによって市民にとっては少しでも、多少は開かれた議会になったんじゃないかなということ、自負しております。

また、例えば上中山の豚舎問題でもそうですが、やはり議会として動くというのは、いろいろな力がすごく働きます。それは本当つくづく思いました。今まで住民の方がいくら声を上げても通らなかったこと、また、行政に話してもどうしても限界がある。それが議会として動くということで前進を見たというのは、これは一つの大きな力だと思うんです。

私はそういう議会を、議会の本来の権能ですよね、こちらをより強く出すためにも、そのような議会運営をしていきたいというふうに思っております。

もう一つ、予算と決算の問題なんです、私は今回の改選でもそうなんです、無所属の議員が増えました。今後、こういう傾向は都市化に伴って進むんじゃないかと思えます。つまり、いろいろな党の看板を背負った単独の一人の議員だったり、もしくは会派に満たない、2人に満たない1人で活動しているいろいろな人が今後当選してくることが想定されます。そういった中で過度に会派制に頼ることではなくて、一人一人の議員が、一人一人の政治的な理念を発揮できるような、そのような議会運営をしていきたいというふうに考えています。勿論これは少数会派、大きい会派変わらず、先ほど言いました議会としてどう考えるか、それを発信するというのが、重要ではないかというふうに思ってるわけです。

そしてもう一つ、最後は開かれた議会、先ほどの広報広聴を強化するというところでございますが、これに関しては今まではどちらかというと市民不在の密室の中で行われるような議会運営が多かったです。はっきり言って昭和の政治はもうやめてしまおうと、そういうふうに思います。常に開かれたオープンな場所で議論を戦わせ、そしてオープンな場所で決定事項を決め、それを市民に分かりやすく広報する。これがやっぱり議会の第一歩ではないかなあというふうに思います。

私はこの部分をより強化することでより新発田市政が発展して、そして市民福祉、一人一人の市民が福祉の向上につながるような、そのような議会運営を目指していきたいというふうに考えております。

以上、私の所信でございますが、なお、今まで議長は4期以上という慣例がございました。前回の若月議長の時に3期の後半だったらいんじゃないかということで、なし崩し的に3期でもいいってことになりましたが、本来は長い歴史が作った4期以上というものをやはり守るべきではないかということをし添えたいというふうに思います。これは自分たちの決めごとですからね、当然時代が変われば変わるとは思います、その辺もお含みおきいただければと思います。

以上の私の所信を終了いたします。

ありがとうございました。

○高橋芳子臨時議長

小柳はじめ議員は演壇にとどまってください。

ただいまの所信に対する質疑に移ります。時間は概ね2分の範囲でお願いします。質疑ある議員の挙手を求めます。

中村こう議員。

○中村こう議員

今ほどは小柳議員の所信表明をお聞きいたしまして、宮崎議員とほぼほぼ同じ流れの中でやってこられたので、理解はいたしましたけれども、あくまでも慣例の話をされましたけれども、改革っていう部分では慣例を重視するということは、ちょっと私は矛盾してるんじゃないかなあと思ったもんですから、ちょっとその辺1点と。

具体的に先ほどの宮崎議員からは今までの流れの中での話しかないんですけども、具体的にこれからの議会改革で、これからというのがもし、お考えの具体的なものがあつたら、お聞かせいただきたいと思ひます。

○小柳はじめ議員

2点ですね。

まず、一つ目が慣例と、慣例っていうのは古い決めごと、どっちかっていうと、準じるといふようなことが慣例ということだといふふうには解せますが、ある意味改革するといふのと相反するといふふうにはありますが、今までの慣例のいいところは残す。で、変えなきゃならない、時代の変化によって変わらなきゃ駄目なところは変えていく、これの振り分けをしなけりゃ駄目だと思ひますよ、仕分けをしなないと。そういった中で残すべきは残す。変えるべきは変える、ここを分かりやすく説明して、ちゃんと論理構成をした上で、こゝういふ理由で慣例は変えますっというんだつたら、これは全然私いいと思ひます。ただ、理由なく、なし崩し的にやるのはやはり問題ではないかといふことで提起をいたしました。

2点目が、やりたいこと、具体的にといふことでございます。これについては、まず一つは広報広聴機能を大幅に強化したいと思ひます。これは少し前から始めた、例えば議会WEB報告会とかございますが、極端な話、これは毎月あつてもいいんじゃないかといふふうには考えています。

また、広報のほうは、ある程度道筋が見えてきたと思うんですが、やはり広聴のほうですね、市民の意見を聞くという意味では、先ほど宮崎議員からも車座、カフェトークの話も出ておりましたが、ありとあらゆる手段を講じて広報する、それで市民からの声を吸い上げる、これをありとあらゆる手段を使って強化していきたいというふうに思っています。

不足でしょうか。

○高橋芳子臨時議長

他に質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○高橋芳子臨時議長

それでは質疑を終了いたします。小柳はじめ議員は降壇し、自席へお戻りください。

〔小柳はじめ議員降壇〕

○高橋芳子臨時議長

議員の皆様申し上げます。ただいま行いました議長選挙に係る所信表明は、地方自治法で規定している議長選挙を変更するものではありません。所信表明の有無にかかわらず、全議員が選挙人であり、被選挙人でもあります。所信表明者以外の議員に投票することも可能でありますので、念のため申し上げます。

それでは議長選挙に係る所信表明会を閉会いたします。

なお、本会議の再開は午前10時30分といたします。

(閉会時間：午前10時22分)